

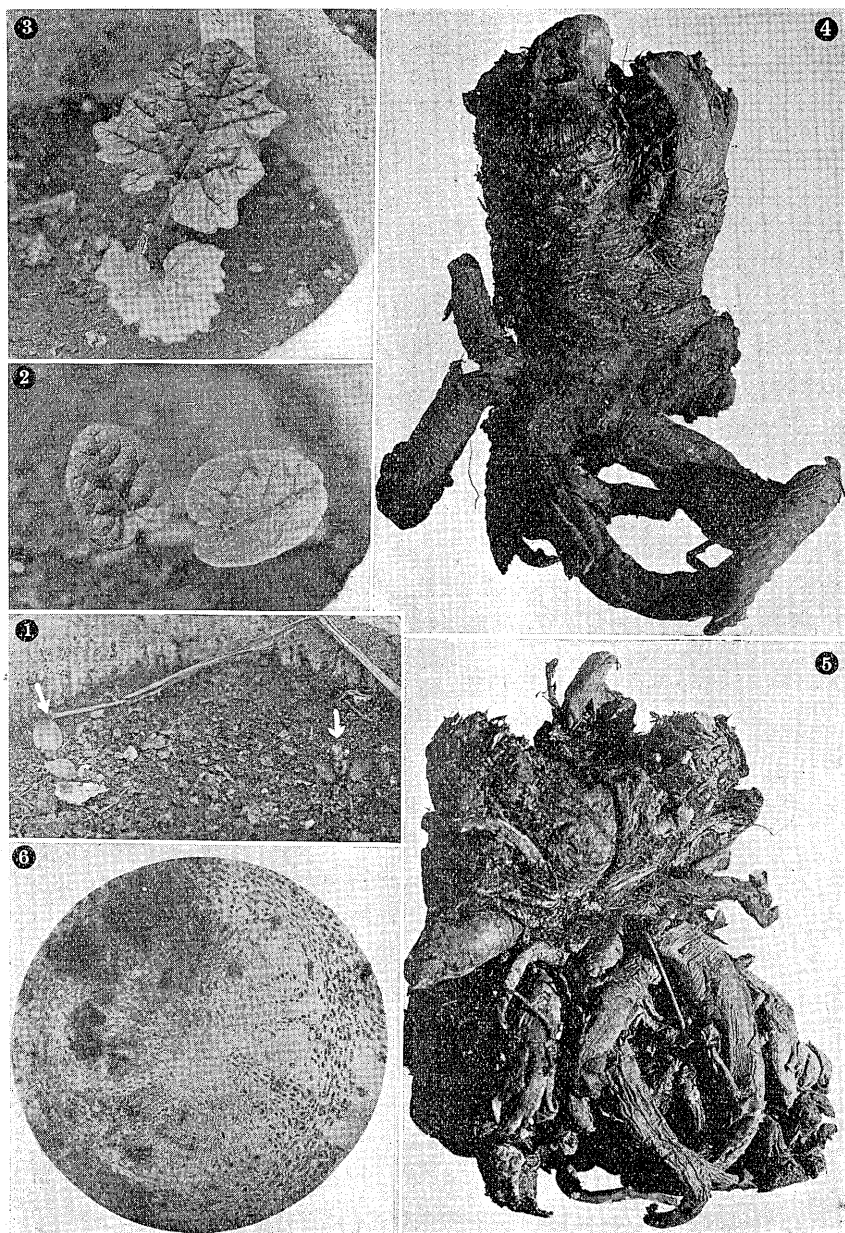
てうせんだいわうニ就テ

藤 田 直 市

N. FUJITA: Ueber *Rheum coreanum* NAKAI

大黃ノ原植物ニ就テ本誌第8巻367頁以下ニ一寸記シタコトガアルが大黃ナルモノハ漢方醫デハ重要ナ藥品デ將軍ナル異名ヲ有スルノデモ分ル。所ガ今回ノ日支事變ハ此大切ナ大黃ノ輸入ヲ杜絶シテシマツタノデ大ニ困タ。實際漢方カラ大黃ヲ採リ去ルト手足ヲモギトラレタ様ナモノデアル。ソコデ當然代用品ガ頭ヲ擡ゲルノデアルガ和大黃デハ信用ガ出來ズ何カ他ニモツトヨイモノガナイカト云フコトニナル。所デ朝鮮白頭山デ中井教授ガ發見シ其後一二ヶ所鮮内デ見出サレタてうせんだいわう (*Rheum coreanum* NAKAI) ナルモノガアル、コレガドンナモノカト考ヘラレル。1934年朝比奈先生ガ朝鮮旅行ノ時ニ惠山鎮林業試験所デ此植物ヲ栽培シテ居ルノヲ見テ其種子ヲ乞ハレタ所、同年秋朝比奈先生ノ所ニ送テ來タノデ、ソレヲ蒔イテ栽培シヨウト思タ。然ルニ石戸谷勉氏カラモ翌年 1935 春同植物ノ種子ヲ送テクレタノデコレモ蒔イタ所、双方共發芽率ハ中々ヨク子葉ヲ出シタ。子葉 (1) ノ形ハ他ノ種類ト同様デ區別ガ出來ナイ、其葉柄ハ薄ク赤味ヲ帶テ居ル。コレカラ普通ノ葉ヲ出スガ何レモ丸葉デアツテ其葉柄ハ多クハ其基部ノ方ニ赤味ヲ薄クモツテ居ルガ *Rheum palmatum* L. var. *tanguticum* MAXIM. トチガヒ葉柄ガ短クテ丈夫ニ見エル。第一年目ノ終リ頃ニ丸葉全縁 (2) ノモノガ其邊縁ニ少シ波形ヲ呈スル様ニナル事モアル。第二年目ニナルト大抵切レ込ミノアル葉 (3) ガ出テ葉柄ノ赤味ハナクナルガ矢張り短ク丈夫デ *Rheum palmatum* var. *tanguticum* ノ葉柄ガ帶赤色デ長イノト違フ。其後ノ觀察デハ葉形ハ *Rheum palmatum* ニヨク似テ居ルガ花ヲ見タリ根ヲ見タリシタイト思テ居タガ陽地ニ移植シタノガ失敗デ大部分枯レテシマヒ今ハ陰地ニ只一株殘ルノミデアル。

扱今回朝鮮總督府技師川口利一氏ノ斡旋デ同農林技師津谷宇米三氏採集ノてうせんだいわうノ根部二箇 (4, 5) ヲ朝比奈先生ガ入手セラレタ。全長約 25 cm 根莖部約 15 cm ノ大ナルモノデ此構造ヲ調べル様ニ命ゼラレタ。元來日本藥局方ノ大黃ハ星形ノ模様ヲシタ渦紋 (Masern) 若クハ其ノ變形シタモノガアルノヲ特徴トスルカラ、此者ニモ渦紋ガアルカナイカヲ調べルノガ第一デアル。所ガ到着シタてうせんだいわうノ根部ハ殆ド全部ガ變敗シテ、生キタ所ハ芽ノ所ニ5分角程シカナカツタ。此生キタ所ニハ小サイケレド渦紋 (6) ハ相當數確



てうせんだいわう 1: 子葉 2: 丸葉 3: 鋸齒葉 4, 5: 朝鮮産成育根部 6: 渦紋

實ニアル。腐敗シタ所デハ其存在ガ判然トセヌガ芽ノ所カラ 6 cm 位ノ所迄ハ確ニアルガ少數シカ分ラナカツタ、ソレヨリ下ノ方ハ粥狀デ如何トモ手ガツカナカツタ。

大黃ノ一種ニ唐大黃ト云フモノガアツテ日本藥局方品デアル。之ハ漢方デハ特ニ尊重シテ居ルモノデアルガ、之ヲ取扱フ度ニ考ヘサセラレルノハ單ニ乾燥スルダケデ果シテコンナ海綿質多孔性ノモノガ出來ルカト云フコトデアル。筆者ハ其處デ若シ調製時ニ變敗セシメテ乾燥スレバ唐大黃ノ様ニナルノデハナイカト想像ヲ逞シクシ、先年食用ノ爲メニ栽培シテ居ルまるばだいわう (*Rheum Rhaponticum* L.) ノ根部ヲ澤山ニ貰タノデ、コレヲ腐敗乾燥セシメヤウトシタガ此種ハ途モ腐敗セズ何時マデモ新葉ヲ出シテ來ルノデ遂ニヤメタコトガアル。然ルニ上記ノ様ニてうせんだいわうハ完全ニ腐敗スルノデ其乾燥ヲ樂ンデ居タガ出來上ルト唐大黃ニヨク似タ構造ニナル唯其斷面ノ色が暗褐色ニナリ鮮黄色デハナイ、然シソレ以外海綿質ニナルコトヤ、切斷スル際甚ダ脆ク粉末狀ニ破壊スルコトナゾハ甚ダヨク似テ居ル、強テ想像ヲ逞フスレバ原產地ノ土民ガ採集セル根莖ヲ積ミ上ゲテ適當ノ時間放置シ内部ガ蒸レタ後乾燥シクモノガ所謂唐大黃ト云フノデハアルマイカ、他日其機ヲ得レバ此點ニツキ精査シテ見ヨウト思フ。

尙今回送ラレタル朝鮮大黃ノ「アントラヒノン」誘導體ノ含量ニツキテハ大阪武田研究部河村俊君ヲ煩ヒシタ其結果ハ下ノ通りデアル。

方法 (Daels 法、KLEIN, Handbuch der Pflanzen-Analyse III, s. 1019)

1. 遊離「アントラヒノン」誘導體ノ定量

70°ニ於テ乾燥セル檢體ノ細末 5 g ヲ 200 cc, ノ「クロ、フォルム」中ニ投ジ水浴上ニ半時間加溫シ冷後濾過シタル「クロ、フォルム」液ヲ 5% ノ苛性「ナトロン」液ヲ以テ反覆振盪シ紅色ヲ呈セザルニ至リ全「アルカリ」液ヲ 50 cc ノ「クロ、フォルム」ニテ振盪洗滌シタル後同容量ノ水ニテ稀釋シ濾過シ鹽酸ニテ酸性トナシ析出物ヲ「クロ、フォルム」ニ移行セシメ之ヲ脱水シタル後珪藻土ヲ使用シテ濾過シ「クロ、フォルム」ヲ溜取シ殘留物ヲ 70°ニ於テ乾燥秤量ス。

以上ノ方法ニヨリ根部 5 g ヨリ 0.02 g (0.4%), 根莖部 5 g ヨリ 0.6328 g (0.66%) ノ殘留物ヲ得タリ。

2. 結合「アントラヒノン」誘導體ノ定量

上記「クロ、フォルム」ヲ以テ浸出セル粉末ニ 50 cc ノ 25% 硫酸及 200 cc ノ「クロ、フォルム」ヲ加ヘ水浴上ニ於テ 3 時間加溫シ冷後「クロ、フォルム」

液ヲ分チ減少セル部分ヲ追加シテ 200 cc トナシ其 150 cc ヲトリ同容量ノ 10 % 酸性亞硫酸曹達液ニテ振盪シ(タンニン質除去)「クロ、フォルム」液ヲ珪藻土ヲ通ジテ濾過シ更ニ之ヲ 100 cc ノ 1 % 鹽酸ヲ以テ振盪洗滌シタル後脱水シ蒸溜シテ「クロ、フォルム」ヲ去リ殘渣ヲ減壓下 70° ニ於テ乾燥シ秤量ス。

以上ノ方法ニヨリ根部 5 g ヨリ 0.1824 g (3.65 %)、根莖部 5 g ヨリ 0.120 g (2.4 %) ノ「アントラヒノシ」誘導體ヲ得タリ。

生藥大黃ノ之等成分ノ含量ハ WASICKY ヤ其他ノ書物ヲ參酌シテ見テモ大體 2-5% デアルカラてうせんだいわうモ立派ニ藥用價值ヲ有スルト云ヒ得ル。

朝比奈先生ハ此化學的ノ貴重ナル根據ヲ與ヘラレ斷定的意義ヲツケラレタコトヲ深く感謝シ、又材料ヲ與ヘラレタ諸氏及此仕事ヲ助力セラレタ山岸、三ツ野、佐々木、高橋、木ノ島ノ諸君ニ謝スル。

「青 花」ニ 就 テ

シマ ダ ヘル ヤ
島 田 玄 彌

H. SHIMADA: Notes on the blue pigment "Aobana" extracted from the petals of *Commelina communis* L. var. *hortensis* MAKINO.

「青花」ト云フノハつゆくさノ花瓣ヨリ得タ花ノ汁ヲ和紙ニ浸マセ乾燥シタ一種ノ色素ノ事デアル、コノ青花ハ隨分古イ歴史ヲ持ツテ居ルモノデアルガ需要ノ量モ少ク一般世人カラ殆ンド忘レ去ラレタモノデアルガ現在デモ滋賀縣下デつゆくさを栽培シ年々青花ヲ製造シテ販賣シテ居ル。先年之ヲ實地ニ見學シ今年モ更ニ之ヲ觀察シテ其ノ不足シテ居タ點ヲ補足スルコトガ出來タカラ茲ニ其ノ大要ヲ記シテ見タイト思フ。

つゆくさは夏ノ頃路傍ヤ少シ濕ツタ草原ニヨク繁ル一雜草ニ過ギナイガ其ノ可憐ナ花ヤ草ノ姿、又鮮ヤカナ空色ノ花瓣ノ色彩ハ誰ノ眼ニモ留ルモノデ昔カラ世人ノ注目スル所トナツテ居テヨク歌ニモ詠マレテ居ル。然シ今吾等ノ云フつゆくさは往昔幾多ノ異名ガアツタラシク文學方面デハつきくさ、つゆくさ等稱シテ居タ。萬葉集ニ

「ツキ草ニ衣ハ摺ラムアサ露ニヌレテノ後ハウツロヒヌトモ」

「ツキ草ニ衣イロドリスラメドモウツラ色トイフカシルシキ」